

自由な発想でまちづくりの検討を

中心市街地ゾーニング検討委員会の第1回目の会議が5月13日、市役所本庁で開催されました。
この委員会は、総合計画審議会委員や一ノ関駅周辺整備まちづくり市民検討委員会委員など市民20人で構成し、一ノ関駅から大町、地主町さらには市役所本庁および旧磐井病院を含む中心市街地エリアをそれぞれ望まれる機能ごとにゾーニングし、将来を見据えた大局的な視点に立ったまちづくりについて、市民と協働で検討しようとするものです。



第1回検討委員会の様子

会議に先立ち勝部市長は、「市の中心市街地を今後どのような形にしていっていかねばならないか、将来的な視点をもつて検討していかねばいけない。皆さんの自由な発想で、多くのアイディアや夢を語ってほしい」とあいさつ。
最初に、委員長と副委員長の選出が行われ、委員長には畠中良之さん（一関）、副委員長には永澤由利さん（千厩）が選出されました。会議では、市から中心市街地を整備していくために4つのゾーンング（※）を行うなどの

説明が行われました。各委員より発言があり、東日本大震災を受け「防災の視点が大事、災害対策を一番に検討を」といった意見が出され、その他、観光や道路、公共交通機関などについての意見も出されました。
今後、委員会では、ゾーン

グについて認識を共有し、大まかな方向性を出したうえで、グループ討議を実施する予定としており、これらを通して意見を集約し、取りまとめた意見を市に対する提言として提出することになっています。
市ではたたき台として、①世代間交流ゾーン：一関文化センターや旧ダイエーなどの周辺エリア②保健福祉ゾーン：磐井病院跡地や市役所周辺エリア③情報発信ゾーン：一

ノ関駅を中心としたエリア④歴史文化回遊ゾーン：田村町や城内、釣山公園が連なる磐井川周辺エリアの4つのゾーンングを示し、中心市街地への公共施設の移転やそれに伴う周辺地域の整備など、まちづくりの方向性を提示しています。
※ゾーンング：区分すること。特に、都市計画などで、各地域を用途別に区画すること。

東日本
大震災

支援職員10人、住家被害調査に尽力

東日本大震災で多数発生した住家被害の調査を急ピッチで進めている当市に5月9日、新たな戦力が加わりました。
震災による住家被害の調査に時間がかかるため、当市は、調査にあたる職員の派遣を、災害応援協定を締結している東京都豊島区、友好都市の和歌山県田辺市、義士親善相互応援協定を結んでいる兵庫県赤穂市にそれぞれ要請。これに同じ3区市から、1週間交代でメンバーを入れ替えながら4週間にわたって職員を派遣していただきました。

支援職員は、豊島区から8人、田辺市、赤穂市から各1人の10人。市内の住家被害調査およびり災証明書発行の事務にあたることになっています。
同日の庁議で着任した職員一人ひとりが紹介された後、勝部市長は「大変な苦勞をおかけするが、被災者が1日も早く震災以前の生活を取り戻せるよう対応していきたい」と期待を寄せると、10人を代表して豊島区防災課の高根豊係長が「短い期間だが精いっぱい頑張りたい」と決意を述べました。



着任した10人の派遣職員

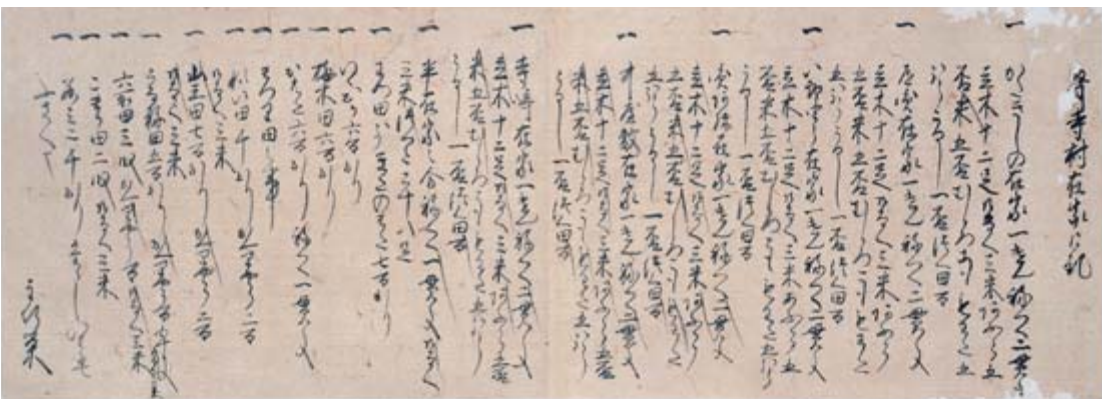
博物館

Ichinoseki City
Museum

だより

骨寺村在家日記

38



骨寺村在家日記(複製) 原史料:中尊寺大長寿院蔵

骨寺村在家日記
かたきしの在家一けん、ねんく二貫文、立木十二足、そなへ三米、あふら五、五、米五、むしろ、こも、もわた、五、ほう、うるし一貫文、つく田百、道円在家一けん、ねんく二貫文、立木十二足、そなへ三米、あふら五、五、米五、むしろ、こも、もわた、五、ほう、うるし一貫文、つく田百、八郎四郎在家一けん、ねんく二貫文、立木十二足、そなへ三米、あふら五、五、米五、むしろ、こも、もわた、五、ほう、うるし一貫文、つく田百、中屋敷在家一けん、ねんく二貫文、立木十二足、そなへ三米、あふら五、五、米五、むしろ、こも、もわた、五、ほう、うるし一貫文、つく田百、寺崎在家一けん、ねんく二貫文、立木十二足、そなへ三米、あふら五、五、米五、むしろ、こも、もわた、五、ほう、うるし一貫文、つく田百、半在家之分、ねんく一貫文、そなへ三米、つくた二十八、わつ田分、きたのまた七百かり、い、おが六百かり、梅木田六百かり、かはた六百かり、ねんく一貫文、まつり田之事、れい田千かり、かんりやう二百、そなへ三米、山王田七百かり、かんりやう二百、うなね田五百かり、かんりやう百五十文、六所田三段、かんりやう百、そなへ三米、こまか田二段、そなへ三米、若みこ千かり、た、しいまに七、ふさく也、

「在家」とは、年貢や公事(雑税)を賦課された農民、土地、屋敷のことをいいます。『骨寺村在家日記』は、中尊寺に伝わる古文書の中の一つで、南北朝時代終わり頃の骨寺村(厳美町本寺地区)の生産物を知ることができる史料です。

『骨寺村在家日記』には、在家と、半在家、名前がつけられた田からの貢納品について記されています。名前がつけられた田のうち、「わつ田」「いゝおか」「梅木田」「かはた」は地名と考えられ、現在でも本寺地区の地名として残っています。また、「れい田」「山王田」「うなね田」「六所田」「こまか田」「若みこ」については、骨寺村に祭られている社に供える米を生産している田(神田)と考えられており、これらの神田は中世の骨寺村を描いた『陸奥国骨寺村絵図』にも見る事ができます。

貢納品の内容を見ると、年貢は銭で納めていたことが分かります。また、稲作による「米」や、山野からの収穫物である「立木」や「うるし」、農民たちによる生産物である「むしろ」「こも」など、様々な品物を納めていたことが読み取れます。

5月28日より、骨寺村絵図に描かれた内容について図や写真を混じえて解説する展覧会「中世荘園からの招待状 ―図解 骨寺村―」を開催しておりますので、皆さんのご来館をお待ちしています。

一関市博物館案内

☎29-3180 ホームページhttp://www.museum.city.ichinoseki.iwate.jp

- テーマ展1**
中世荘園からの招待状 図解骨寺村
 ■会期：5月28日④〜7月10日④
 【関連行事】骨寺村荘園遺跡ツアー
 ■日時：6月5日④13時〜16時※参加無料■定員：30人
 【関連行事】講演会「骨寺村と中尊寺」
 ■日時：7月3日④13時30分〜15時※参加無料■定員：100人
 講師：当館館長
- 和算講座初心者コース**
楽しむ和算全7回
 ■初回：6月11日④13時30分〜15時
 ■参加料：300円■定員：36人
- 美術についてのおしゃべりの会**
 テーマ：洋画
 ■日時：6月19日④13時30分〜15時30分※参加無料■定員：10人
- はくぶつかんこどもくわ**
カメラの元祖ドンクルカア
ムルをつくらう
 ■日時：6月25日④13時30分〜16時
 ■定員：親子25人■参加料：400円
- 大人の調べ学習**
路傍の石碑全6回
 ■日時：6月26日④13時30分〜15時30分②7月16日④10時〜15時30分
 ■内容：①オリエンテーション・講演「いわいの石碑」②石碑の調査・法拓本用紙作りと拓本作成■定員：20人■参加料：②のみ300円